

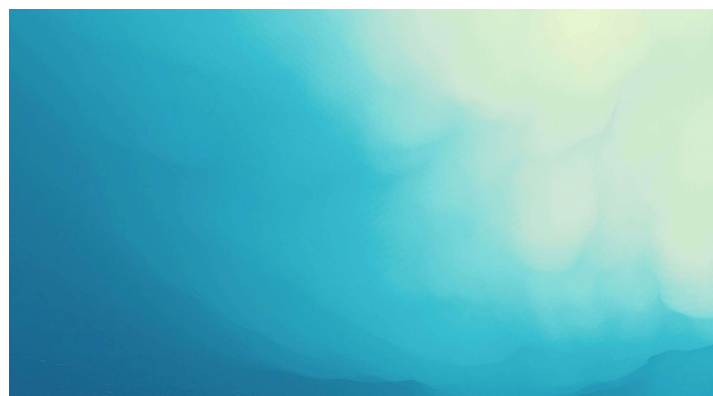
# つながりを力に 地域みんなで築く 共生社会の未来

おおた地域福祉フォーラム

同志社大学 永田祐



1



## 地域社会の未来

人口や地域社会の動向を踏まえ、これからの地域社会の姿を考えます。

2

家族の変化

## 少子高齢化の進展

### ◆将来人口推計

(2015年) (2065年)

#### ・日本の総人口

1億2,709万人 → 9,159万人

#### ・老年人口(65歳以上)

3,346.5万人 → 3,513万人  
(26.6%) (38.3%)

#### ・生産年齢人口(15~64歳)

7,628.8万人 → 4,809万人  
(60.7%) (52.5%)

#### ・年少人口(0~14歳)

1,588.6万人 → 836万人  
(12.6%) (9.1%)

前回推計では、8000万人台でした

### ◆合計特殊出生率の仮定

(2017年) (2065年)

1.43 → 1.36

※非婚化・晩婚化により合計特殊出生率は今後も劇的には回復しないことが予想される。

### ◆平均寿命の仮定

(2018年) (2055年)

男 81.09歳 → 85.89歳

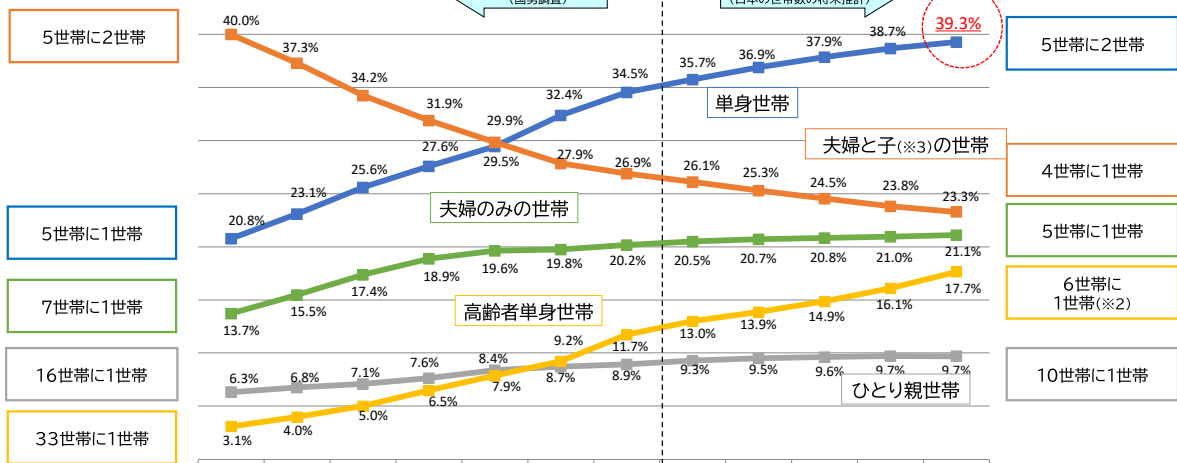
女 87.26歳 → 91.94歳

出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」(2023年)の中位推計による。

3

家族の変化

## 世帯構成の推移と見通し



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」(2018年推計)  
 (※1) 世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。  
 (※2) 全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、32.6%(2015年)から40.0%(2040年)へと上昇。  
 (※3) 子については、年齢にかかわらず、世帯主との続柄が「子」である者を指す。

4

■ 認知症の人の将来推計について

- 長期の縦断的な認知症の有病率調査を行っている久山町研究のデータから、新たに推計した認知症の有病率(2025年)。
  - ✓ 各年齢層の認知症有病率が、2012年以降一定と仮定した場合:18.5%。
  - ✓ 各年齢層の認知症有病率が、2012年以降も糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合:20.0%。
- ※ 久山町研究からモデルを作成すると、年齢、性別、生活習慣病(糖尿病)の有病率が認知症の有病率に影響することがわかった。  
本推計では2060年までに糖尿病有病率が20%増加すると仮定した。
- 本推計の結果を、平成25年筑波大学発表の研究報告による2012年における認知症の有病者数462万人にあてはめた場合、2025年の認知症の有病者数は約700万人となる。

「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学 二宮教授)

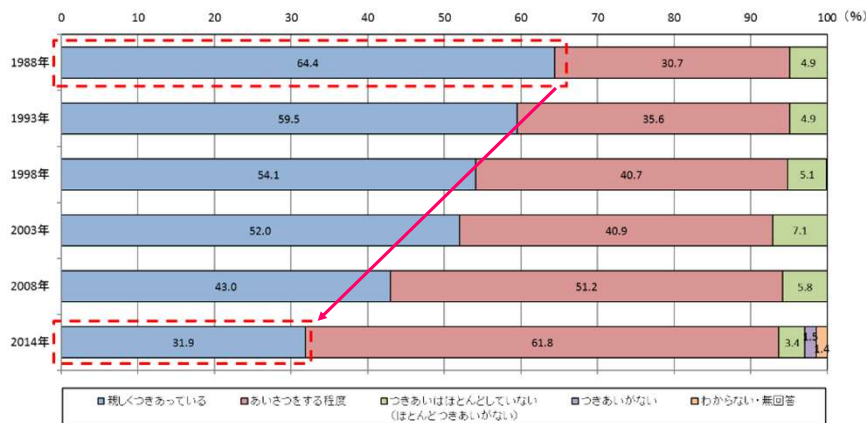
年	2012年	2015年	2020年	2025年	2030年	2040年	2050年	2060年
各年齢の認知症有病率が一定の場合の将来推計人数/(率)	462万人 15.0%	517万人 15.2%	602万人 16.7%	675万人 18.5%	744万人 20.2%	802万人 20.7%	797万人 21.1%	850万人 24.5%
各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計人数/(率)	462万人 15.0%	525万人 15.5%	631万人 17.5%	730万人 20.0%	830万人 22.5%	953万人 24.6%	1016万人 27.0%	1154万人 33.3%

5

つながりの希薄化

高齢者の近隣とのつながりの状況

- 60歳以上の男女を対象にした調査では、近所の人たちと「親しくつきあっている」としている者の割合は1988年から2014年で半減しており、高齢世代の地域のつながりも希薄化する傾向にあると考えられる。



資料:2008年以前:内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」、2014年:内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」

注1) 対象は60歳以上の男女  
注2) それぞれの調査における選択肢は以下のとおり。  
高齢者の地域社会への参加に関する意識調査:「親しくつきあっている」、「あいさつをする程度」、「つきあいはほとんどしていない」、「つきあいが無い」。  
高齢者の日常生活に関する意識調査:「親しくつきあっている」、「あいさつをする程度」、「ほとんどつきあいが無い」、「つきあいが無い」、「わからない」、「無回答」。

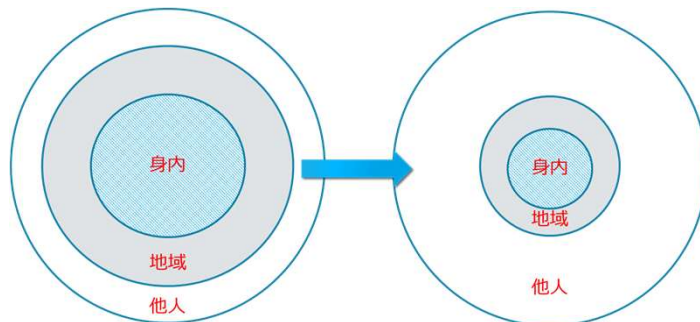
6

地域社会の変化

## 地域というセーフティネットの脆弱化

- 人口が高齢化し、単身者が増える一方で、職住分離が進み、地域のつながりも希薄化しています。⇒職住分離が進むと、地域とのつながりは、必須のものではなく選択的なものになる。親族ネットワークや地域とうまくつながれない「関係の貧困」(社会的孤立)は、「孤立死」に代表されるような様々な問題の原因になっていると考えられます。

○家族の規模は縮小し、地域社会と関わりを持たない人が増加することで、いざというときに頼れる人がいない、助けてといえる人がいない人が増加する。



7

## 身寄りのない人の課題

- 「**入院先**で、同居家族は保証人になれないと言われた」(51歳、男性)
- 「娘の近くに転居することにし、**賃貸物件**を探したところ、高齢を理由に断られた」(80歳、女性)
- 「**会社に面接**にいったが、身元保証人が必要と言われ驚いた」(63歳男性)
- 「**家族・親族**」がいないことで、**入院・入所、賃貸住宅**や**就職**において困る人が増加(家族を前提とした社会保障が限界になっている)。

**身元保証人いない高齢者 介護施設3割入所拒む**

高齢者が介護施設に入所する際、身元保証人がいない場合は受け入れ拒否する施設が約3割に上ることが、厚生労働省の委託調査で分かった。単身者や身寄りのない人が保証人を用意できないケースが増えるなか、国は入所を拒否しないよう求めているが、施設側には費用の支払いや死亡時の引き取りなどの不安が根深い。

**利用料支払い 不安視**

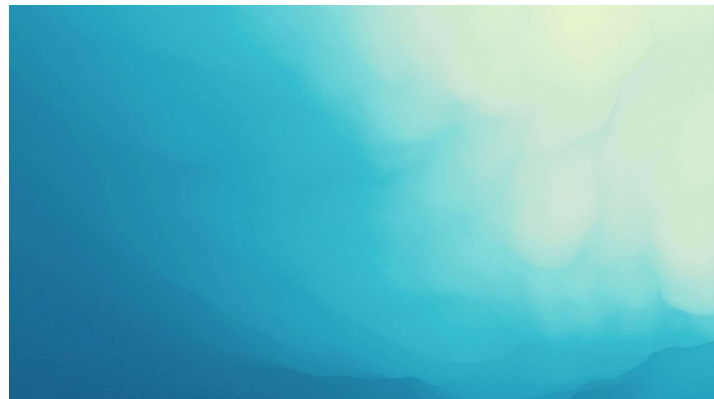
調査は委託先のさほ「入れない」と回答。成年情報誌が昨年12月、全後見制度の申請など「案の特別養老ホーム」件付きで受け入れることや老人保健施設など19・33・7%で、要介護度0から実態2・3・8%でも受け入れる施設は13・7%から回答を得た。4%にとどまった。保証人や身元保証人などとして、緊急時の連絡先として、入所時の契約書「遗体や遺品の引き取り」に本人以外の署名を求め「入所時の手続き」利ており「この30%の保証人の支払いや前納時%は「要がない」と受けの保証」との回答が多

入所時に身元保証人がいない場合の介護施設の対応

無回答	1.9
受け入れる	13.4
特別決めていない	20.3
受け入れない	30.7
条件付きで受け入れる	33.7

2018年5月21日 日本経済新聞 8





## 地域共生社会という未来

支えあう地域社会の未来の姿を考えます。

11

### こうした課題を踏まえた **これからの福祉**

#### 「地域共生社会」の実現

「制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、**地域をともに創っていく社会**」(厚生労働省)

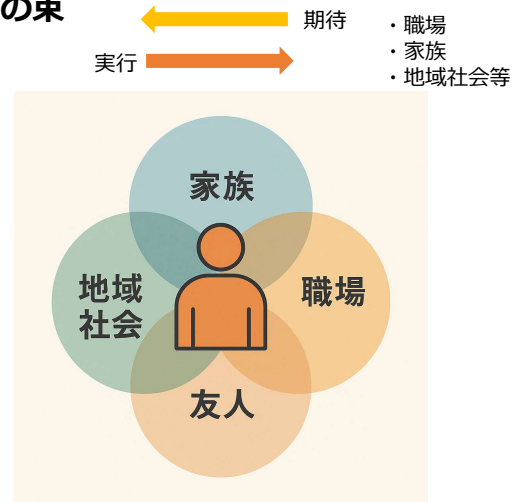
- 「支援が必要な人」と考えるのではなく、人には**支援が必要な「時」**があると考える。支援が必要な人とそうでない人と分けるのではなく、**みんなに役割と出番、「立つ瀬」がある地域を創る**、ということです。

12

## 役割と出番

- 私たちは、社会的存在で「役割の束」を生きています。
- **孤立した状態**では、役割がなくなり、自分が認められる場がなくなってしまい、社会から必要とされているという感覚を持つことができません。
- →役割は、人との関係の中で生まれるので、人とのつながりをつくっていくことができないと、役割も消失します。

### 役割の束



13

## 孤立と健康との関係

- 社会と**多様なつながり方**がある人は、認知症発症リスクが半減（国立長寿医療研究センター、10年間の追跡調査の結果）
- 横浜市立大学、**地域での仲間づくり**が10年以上続くと介護リスクが低下することを実証（日本経済新聞、2025/07/30）
- 要介護リスク **働く**と減る 身体機能維持、多世代交流にも（読売新聞、2024/1/23）
- 高齢者要介護リスク **人付き合い**週1未満1.4倍 死亡リスクも高まる（読売新聞、2015/4/22）
- 高齢者の健康維持、運動よりも「**交流**」（朝日新聞、2024/4/8）

14

## 孤立と健康との関係(海外)

OPEN ACCESS Freely available online

PLOS MEDICINE

### Social Relationships and Mortality Risk: A Meta-analytic Review

Julianne Holt-Lunstad<sup>1,2\*</sup>, Timothy B. Smith<sup>2,3</sup>, J. Bradley Layton<sup>3</sup>

1 Department of Psychology, Brigham Young University, Provo, Utah, United States of America, 2 Department of Counseling Psychology, Brigham Young University, Provo, Utah, United States of America, 3 Department of Epidemiology, University of North Carolina at Chapel Hill, Chapel Hill, North Carolina, United States of America

- 【研究内容】社会関係と死亡率の関係を調査
  - 合計308,849人を対象にした148の研究を解析。
- 【結果】
  - 十分な社会的な関係を持つ個人は、不十分または貧弱な社会的関係しか持たない人と比較して、生存の可能性が50%高い。
  - この効果の大きさは、喫煙をやめることと同等、肥満、身体活動不足などの多くの死亡リスク要因を上回る。

15

## なぜ、犬を飼っていると健康なのか

- 「猫より犬を飼うと健康になる？」(毎日新聞、2025/2/3)
- 犬の飼い主は、関連する社会人口統計学的、身体的、心理的、社会的要因を調整した後、ペットを飼っていない人と比べて、死亡リスクが有意に低いことが示されました。
- 猫、鳥、魚、その他のペットの所有は、死亡率との明確な関連は見られませんでした。これらのペットの飼い主も犬の飼い主と同様の社会人口統計学的特徴を持っていましたが、健康への影響は見られませんでした。
- →なぜ、犬を飼っている人が健康なのでしょう？

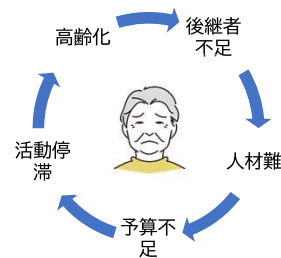
## きょうようときょういく

多湖輝「100歳になっても脳を元気に動かす習慣術」(日文新書)2011年。

17

## 出番のある居場所をどう作るか

- 孤立を防ぎ、人と**交流できる居場所**があって、**役割をもって活躍できる**ことが、あらゆる世代で重要になっています。
- 地域福祉活動(サロン、見守り、生活支援や移動支援)は、こうした「きょうようときょういく」を作り出してきました(これからも大事)。
- しかし、人口減少や高齢化が進むなか、「担い手がいない・高齢化している」、「若い人が地域の活動に参加してくれない」といった悩みを聞くことが増えてきました。
- どうしたらよいのでしょうか？



18

## 「義務感よりも楽しさ」で発想の転換を

- 行政が、上から網をかぶせるように指導しても、まちは動かない。
- 地域の皆さんは、すでに多くの役割を担い、疲弊しています。次々と新たな「お願い」をしても新しい活動は生まれません。
- (福祉以外の)すでに様々な取り組みをしている人と出会い、つながり、「やりたいこと」と福祉の取り組みとの接点を考えると新しい化学反応が生まれます。
- →福祉の枠にとらわれない、地域の中の「宝探し」。多様な人の力を重ねる地域づくりの新しい発想が求められています。

19

## 地域づくりは「郷土料理」



- Know how(どうやるか) より Know who(誰を知っているか)
- 先進事例から学べるのは「発想」だけ。まちにある素材(人)と作る。

20

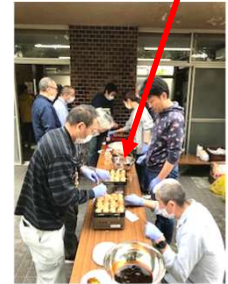
## 団地×社会福祉法人

「食」はタッチポイント(接点)になりやすい

### ポイント

- 異質な人が集まった(ごちゃまぜの)ほうが役割が生まれやすい。

- 「住まう」「はたらく」「まざる」を一体化した京都市営住宅を活用した空き家活用。
- 社会福祉法人を中心に、行政(都市計画局)、団地自治会、社協(生活支援コーディネーター)によるプロジェクト。
- アイデアをたこ焼きミーティングで話し合いながら、芸大の学生の住まいにしたり、買い物支援などがスタート。



## 「人が集まると何かが起こる」 by自治会長

毎週火曜日の喫茶 たこ焼きミーティング 空き住戸に活動拠点を開設 (ボランティアセンター・活動センター) 買い物支援の展開 空き住戸を大学生のアトリエなど (団地の縁側をつくる) 大学生スタッフの参画

(西野山団地自治会連合会)

21

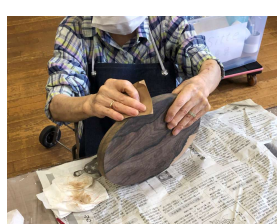
## 〇〇×福祉の発想

### 〇漁港で子ども食堂?(大阪府阪南市)



〇海のことをもっと知ってもらいたいという漁師さんたちと、子どもたちの居場所を作りたいという支援者の思いがつながりました。漁港での困窮者の就労体験は、人材不足の解消も期待されています。

### 〇デイサービスで仕事?(京都市)



〇企業と連携して、デイサービスを利用する高齢者が、商品の製造工程の一部を担う。木製のまな板は、企業が仕入れ、加工されたものを利用者がやすりがけ、オイルがけなどの仕上げを担当。デイの中で「仕事の時間」が設けられており、出勤簿に押印して、仕事がスタート。

### 〇高齢者施設で子どもの学習支援?(滋賀県高島市)



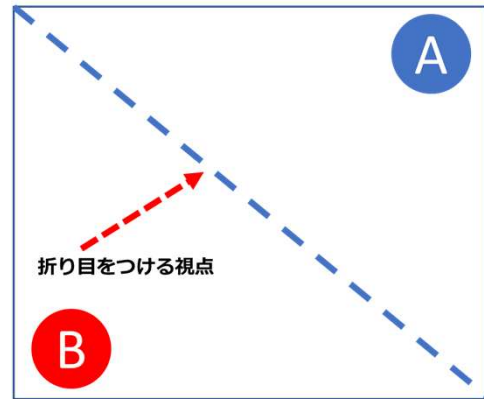
〇地域の夜の居場所のない子どもの課題を知った高齢者施設。24時間365日人がいる施設の強みを生かして、子どもたちの夜の居場所づくりを始めました。特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護の事業所に広がっています。

- 新しい地域づくりの仲間を広げるために、皆さんの周りに眠っている地域の「お宝」がないか、探してみてください。「地域を元気にしたい」と思っている仲間が必ずいるはずです。本業+α、クロス人材という発想。

22

## 社協への期待 点と点をつなぐ場づくり

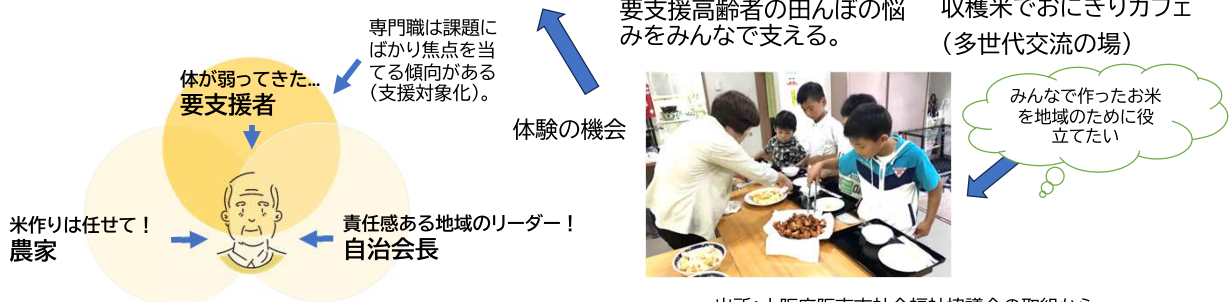
- 地域には、思いを持った人がいて、何かをしていたり、しようとしていたりしている。
- 福祉を「地域の中のできごと」にしていくためには、多様な人の出会いを生み出す点と点をつなぐ仕掛け(異質性の架橋)が必要になる。
- 日ごろから地域の人と話しながら(Know Who)、「かかわりしろ」・「互助の種」を拾い、それがつながる場を作してほしい。
- →こうした出会いを作るプラットフォームが作ることが重要になる。



23

## みんなが活躍できる地域福祉

- 課題の捉え直し＝「課題」に角度を変えてアプローチすること。
- 専門職の常識ではなく、本人の思いや、可能性を大切にすること。



出所：大阪府阪南市社会福祉協議会の取組から 24



## 違いを共に生きる未来

最後に、私たちがどうしたらよいか、一緒に考えてみたいと思います。

25

## 皆さんはどう回答しますか？

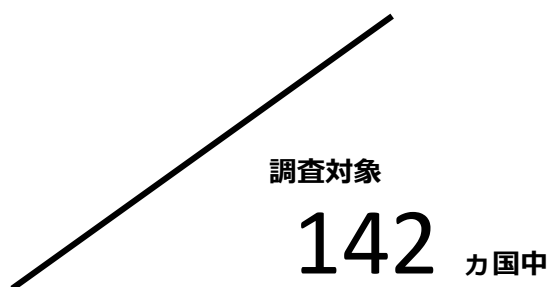
- この1か月間の中に
- 見知らぬ他人を助けたか？ %
- 寄付をしましたか？ %
- ボランティアをしましたか？ %



出所: Charities aid foundation  
WORLD GIVING INDEX 2024.

26

## 世界の他の国と比較すると



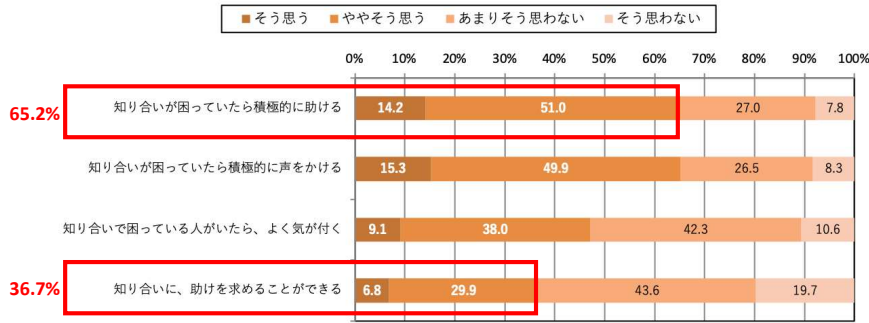
27

## 日本人は助け合わない？

- 実は、前回の同調査でも日本は最下位でした。
- 日本人は助け合わない国民性なのでしょうか？
- そんなことはない(はず)。

28

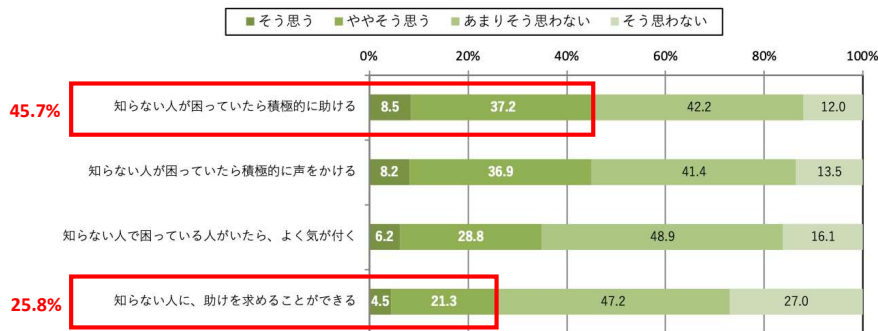
## 知り合いが困っていたら助けるという人は多いが知り合いにもSOSを出すことは苦手



出所：こくみん共済coop（全労済）「たすけあい」に関する意識調査

29

## 知らない人を助けること、SOSを出すことが苦手な人が多い



出所：こくみん共済coop（全労済）「たすけあい」に関する意識調査

30

私たちは  
『**違いを**』共に生きる』  
ことが苦手なのかもしれない

お友だちなの？

それほど混んではいない電車でした。  
二俣川について降りようと  
ドアのほうに向けた白い杖のわたし  
に

つと立ってきてドアからホームへ  
手を貸してくれたかたがありました  
ホームに降り

礼をいって歩きはじめたとき  
その方が連れていたらしい女の子の  
あどけない声が聞こえました。

「あの人、お父さんのお友だち？」  
その方は答えました

「そっ、お友だちだよ」と  
笛が鳴り、扉が閉まって

線路の響きは遠く消えたけれど  
…友だち…友だち

見知らぬ方のあのひとことは  
私の心を温めてくれる  
本当にうれしいひとことでした

## 「違いを共に生きる」

- 人口は減り、家族のカタチは変わり、従来の地域のつながりは、希薄化しています。
- しかし、人はつながりと居場所を必要としています。
- 福祉を「みんなのできごと」にしていくために、仲間を見つけ、活動を広げていくことで、様々な人の「居場所」ができ、そこでのつながりが、多様な人がともに生きる未来につながるのではないかと考えています。



33

34